

第26期第2四半期株主通信

(平成21年10月1日から平成22年3月31日まで)



株式会社CSSホールディングス

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より当社グループにひとかたならぬご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年3月31日をもって、当社グループ第26期上半期（平成21年10月1日から平成22年3月31日まで）を終了致しました。ここに第2四半期株主通信をお届けし、事業の概況をご報告申し上げます。

当上半期は、「現場主義の徹底による人材の育成」「コスト削減による利益体質の強化」という社長就任時からの方針を引き続き掲げ、事業体質の強化に努めてまいりました。これらの結果、売上高はわずかに計画に届かなかったものの、利益面では業績予想を大きく上回ることができました。

当下半期以降は、これら方針に新たな中長期的な視野を加え、将来の飛躍に向けた事業基盤づくりに取り組んでまいります。今後とも変わらぬあたたかいご支援をお願い申し上げます。

平成22年6月

株式会社C S Sホールディングス
代表取締役社長 松木 崇

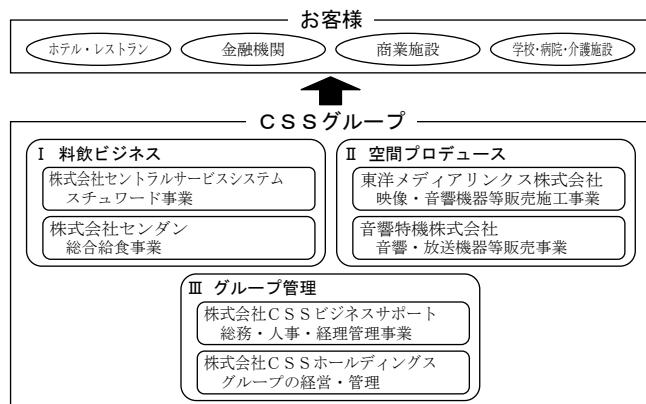
連結業績のご報告

当上半期におけるわが国経済は、景気が着実に持ち直す一方で雇用情勢は依然として厳しく、設備投資需要や個人消費は低水準のまま推移し、緩やかなデフレの状況が続きました。

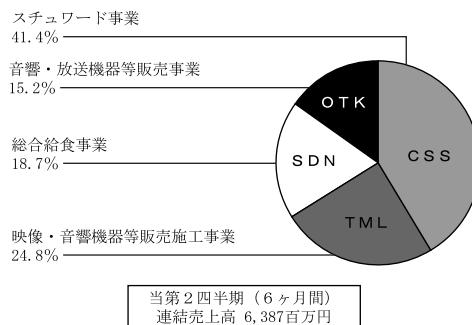
当社グループの主要顧客であるホテル業界、商業施設業界においても、収益の改善には未だなお時間を要する状況にあり、当社グループを取り巻く経済環境は先行き不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループは事業体質の強化を着実に進めるべく、顧客のニーズを的確に捉えたパートナー企業として顧客の利益を最大限に引き出す取り組みに加え、売上原価の低減と本部経費の見直しを推し進めました。その効果により、当上半期の業績は下記の通りとなりました。

連結売上高	6,387百万円	(計画比	4.9%減)
連結営業利益	144百万円	(計画比	90.3%増)
連結経常利益	156百万円	(計画比	108.0%増)
連結四半期純利益	102百万円	(計画比	77.1%増)



売上高構成比率（事業別）



セグメント情報

スチュワード事業

株式会社セントラルサービスシステム（CSS）

当事業は、ホテル・レストランにおける食器洗浄を中心としたスチュワード管理を全国展開している当社グループの中核事業であります。

当上半期においては、引き続き人員管理の徹底を図り、リーディングカンパニーとしての人材育成を推し進め、顧客との連携、各事業所間の連携をさらに深めるとともに、事業所一件ごとの業務オペレーションの改善を図ってまいりました。

この結果、売上高、営業利益ともに計画を上回り、売上高2,647百万円（計画比1.4%増）、営業利益107百万円（計画比48.4%増）となりました。

映像・音響機器等販売施工事業

東洋メディアリンクス株式会社（TML）

当事業は、日本のBGMのパイオニア企業としての音楽関連業務と、セキュリティシステム、映像・音響システムの設計施工業務を幅広い顧客層向けに展開している当社グループの中核事業であります。

当上半期においては、組織の見直しと本部の集約により部門間の連携をさらに深め、商品力の強化を推し進めました。

この結果、売上総利益率は計画に比べ1.7%改善し、販売費及び一般管理費も計画を上回る削減効果が得られましたが、主要顧客である大型商業施設などの改修計画の規模縮小や延期により機器設備売上が伸び悩み、結果、売上高1,588百万円（計画比20.0%減）、営業利益20百万円（計画比50.3%減）となりました。

総合給食事業

株式会社センダン（SDN）

当事業は、従業員食堂運営を中心にレストラン運営などフードサービスに係る総合給食事業を全国展開しております。

当上半期においては、飲食業界におけるアウトソーシングのニーズの高まりを背景に採算性を重視した営業活動を推進し、新たに九州地区のホテル内レストラン・宴会業務の運営、関東地区の金融機関内従業員食堂の運営を開始致しました。加えて、全事業所を対象として導入した食材の統一調達システムの活用により、さらなる売上原価の低減が実現致しました。

この結果、売上高1,195百万円（計画比0.1%減）、営業利益48百万円（計画比364.0%増）となり、利益面で連結業績に大きく貢献致しました。

音響・放送機器等販売事業

音響特機株式会社（OTK）

当事業は、大型スピーカーやアンプ等のプロフェッショナル向け音響機器の輸入および販売事業を展開しております。

当上半期においては、国内のプロオーディオ市場の取縮傾向が依然として続く中、前期に国内総代理店権を獲得した海外製品の販売を促進するとともに、商品センターの管理業務の見直し等による販売費及び一般管理費の削減を推し進めました。

この結果、売上高975百万円（計画比2.7%増）、営業利益19百万円（計画比187.0%増）となりました。

総務・人事・経理管理事業

株式会社CSSビジネスサポート（CBS）

当事業は、総務・人事・経理業務をグループ会社より受託しております。

当上半期においては、CSS、SDNのパートナー（パート・アルバイト）約4,000名の労務管理、給与計算業務をはじめ一層の業務効率化に努めた結果、販売費及び一般管理費は前年同期に比べ61百万円減少し、利益面で連結業績に貢献致しました。

四半期連結財務諸表

■連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目		当第2四半期末 2010年3月31日現在	前 期 末 2009年9月30日現在
資産合計		7,113,824	6,707,451
	流動資産	5,561,902	5,148,529
	固定資産	1,551,922	1,558,922
負債合計		5,445,146	5,112,959
	流動負債	3,996,234	3,658,519
	固定負債	1,448,911	1,454,439
純資産合計		1,668,678	1,594,492
	株主資本	1,676,560	1,612,717
	評価・換算差額等	△7,881	△18,225
負債・純資産合計		7,113,824	6,707,451

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 2009年10月1日から 2010年3月31日まで	前第2四半期 2008年10月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	438,776	△168,830
投資活動によるキャッシュ・フロー	109,456	138,646
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34,830	151,293
現金及び現金同等物の増減額	513,402	121,109
現金及び現金同等物の期首残高	2,402,021	2,482,542
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,915,423	2,603,651

■連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 2009年10月1日から 2010年3月31日まで	前第2四半期 2008年10月1日から 2009年3月31日まで
売上高	6,387,863	8,394,835
売上原価	5,287,914	7,053,557
売上総利益	1,099,948	1,341,277
販売費及び一般管理費	955,886	1,120,417
営業利益	144,062	220,859
営業外収益	55,162	54,353
営業外費用	42,657	51,864
経常利益	156,566	223,348
特別利益	—	59,312
特別損失	17,782	103,045
税金等調整前四半期純利益	138,784	179,615
法人税、住人税及び事業税	31,238	40,436
法人税等調整額	5,413	—
四半期純利益	102,132	139,179

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

今後の取り組み

当上半期は、「現場主義の徹底による人材の育成」「コスト削減による利益体質の強化」という方針に基づいた具体的な諸施策の効果が表れ、事業体質の強化が着実に進みました。

当下半年以降は、この効果をふまえ売上拡大による成長路線に方向を転じるべく、新たに中長期的な視野を加えた事業計画の策定に着手してまいります。

スチュワード事業（CSS）では、主要顧客であるホテル業界は、法人需要や個人消費の回復の遅れから、未だ厳しい市場環境が続いております。

当事業は、引き続き顧客との連携強化を目的とした、リーディングカンパニーとしての教育・研修による事業所責任者のスキルアップを推し進め、顧客の品質向上と業務効率化につながる各種提案を、現場主導のもと積極的に行える体制の強化を図ります。

また、スチュワード周辺業務への進出を目指し、アライアンス・パートナー様との協力体制の強化を行ってまいります。

総合給食事業（SDN）では、飲食業界のアウトソーシングのニーズが高まる中、食と健康にこだわり、多様な地域性や客層別の顧客ニーズに応じた食堂運営やレストラン運営を行ってまいります。

既に全事業所へ導入を果たした食材等の仕入を管理する統一調達システムは、計画を上回る効果を上げ、今後は付加価値のあるメニュー開発の基盤システムとして、その活用を図ってまいります。

また、顧客の食の嗜好の変化に対応するため、エ

リアマネージャーや店長のスキルアップを推し進め「オリジナリティーの創出」に努めてまいります。

映像・音響機器等販売施工事業（TML）では、設備投資需要が低水準で推移する中、設計施工を中心とするハード部門、BGM・映像制作を中心とするソフト部門、理想的な状態を維持管理する保守部門、3部門の融合による商品力強化、新規商品開発を一層推進してまいります。

また、TMLの全国ネットワークを支えていただいているアライアンス・パートナー様を中心に、商品仕入から販売拠点／保守管理までのサービスラインの整備を進め、営業基盤の強化を図ってまいります。

音響・放送機器等販売事業（OTK）では、新たに獲得した海外ブランドの販売ルートを広げるとともに、さらなるブランド・ラインナップの充実を図ります。

また、社員研修および教育による専門的な商品知識の向上を図り、顧客に対する一層の営業力強化に努めてまいります。

総務・人事・経理管理事業（CBS）では、一層の業務効率化と専門知識の集約を図るため組織の見直しを行いました。今後、さらなる専門知識の向上を進め、管理コストの低減を中心とした効率化を行い、当社グループを管理面からバックアップしてまいります。

通期の業績見通し

	第24期実績	第25期実績	第26期計画
売上高	17,557百万円	14,704百万円	13,162百万円
営業利益	209百万円	187百万円	81百万円
経常利益	195百万円	172百万円	94百万円
当期純利益	△631百万円	144百万円	61百万円
1株あたり配当金	0円	750円	750円

株式の状況／会社概要

■大株主（2010年3月31日現在）

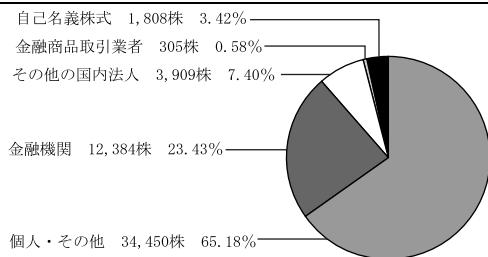
	持株数	持株比率
野口 緑	15,676株	30.71%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090802)	6,340株	12.42%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090803)	5,860株	11.48%
S・T・E・C株式会社	1,800株	3.53%
白土 将敏	1,714株	3.36%
石井 二郎	1,663株	3.26%
株式会社広美	1,200株	2.35%
CSSグループ従業員持株会	698株	1.37%
堀江 豊	601株	1.18%
有限会社福田製作所	400株	0.78%

※持株比率は、自己名義株式（1,808株）を控除して計算のうえ、小数点第二位を四捨五入して表示しています。

■株式の状況（2010年3月31日現在）

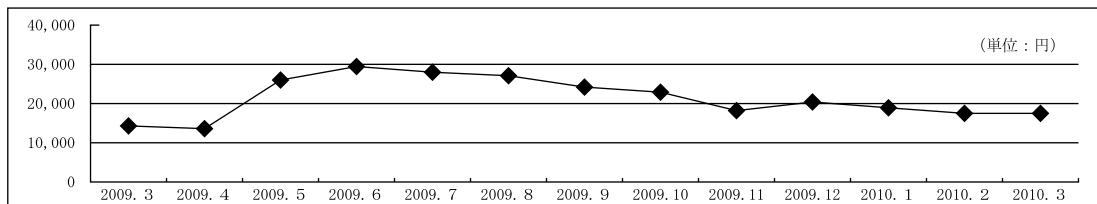
発行可能株式総数	207,760株
発行済株式の総数	52,856株
株主数	1,862名

■株式分布（2010年3月31日現在）



※持株比率は、小数点第二位を四捨五入して表示しています。

■株価の推移（終値）



■会社概要（2010年3月31日現在）

会社名	株式会社CSSホールディングス(グループ全体の経営・管理)
代表者	代表取締役社長 松木 崇
会社設立	1984年(昭和59年)12月
資本金	393百万円
本社所在地	東京都千代田区麹町六丁目1番地25
関係会社	株式会社セントラルサービスシステム(スチュワード事業) 代表取締役社長 三瓶秀男 東洋メディアリンクス株式会社(映像・音響機器等販売施工事業) 代表取締役社長 杉山衛正 株式会社センダン(総合給食事業) 代表取締役社長 磯邊和彦 音響特機株式会社(音響・放送機器等販売事業) 代表取締役社長 辻勝太郎 株式会社CSSビジネスサポート(総務・人事・経理管理事業) 代表取締役社長 川勝雄介

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 毎年12月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年9月30日
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに
日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

<住所変更のお申出先について>

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

<未払配当金の支払について>

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。